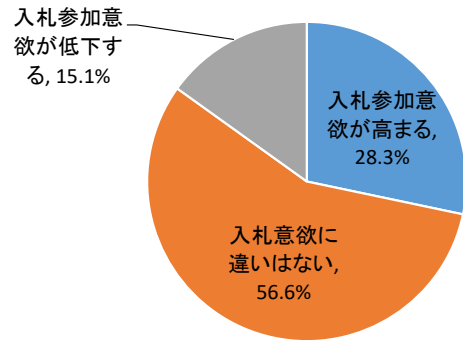


## 令和6年度 土木工事委託業務総合評価方式に係る入札参加者アンケート

### 現在の総合評価の制度について

設問1 総合評価方式による入札の、一般競争入札(価格のみ)に比べた入札意欲を伺います。

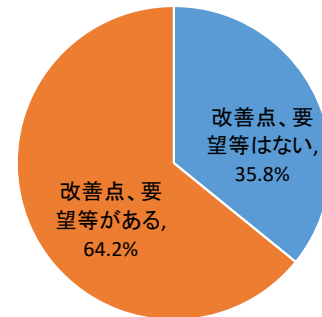
	回答	割合
入札参加意欲が高まる	15	28.3%
入札意欲に違いはない	30	56.6%
入札参加意欲が低下する	8	15.1%
合計	53	100.0%



### 総合評価方式について

設問2 現在の総合評価方式について、改善が必要と思われる点や要望がありますか。

	回答	割合
改善点、要望等はない	19	35.8%
改善点、要望等がある	34	64.2%
合計	53	100.0%



設問2【「改善点、要望等がある。」自由記述】主な意見 ※()内は同様の意見数

(総合評価制度全般について)

企業の有効な提案を活用できる「技術提案型」を多く採用してほしい。(4件)

県内本店(地元企業)を主な対象とした発注案件を行ってほしい。(3件)

同種同様の評価項目だと毎回同じ結果になってしまう。各案件毎に評価項目を検討して頂きたい。(2件)

(評価項目について)

業務実績や評価点は管理技術者しか対象とならないため、世代交代に支障をきたす。担当技術者まで対象範囲を広げて欲しい。(3件)

配置予定管理技術者の専任性について、手持ち件数の評価基準の緩和を要望。(2件)

表彰の配点(価値)が低い。(2件)

地域要件の緩和をしてほしい。(2件)

(総合評価手続き)

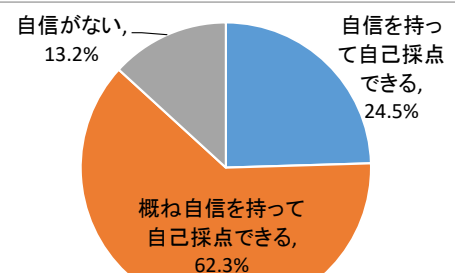
審査書類作成の作業軽減。(4件)

落札候補となってから落札決定までの日数がかかりすぎる。(3件)

落札候補者の事後審査書類の提出期限までの日数をもう少し長くしてほしい。(2件)

設問3 簡易型(実績重視型および地域担手型)では、自己採点方式を採用しておりますが、自己採点申請書に記載する「自己採点」について、どのように感じていますか。

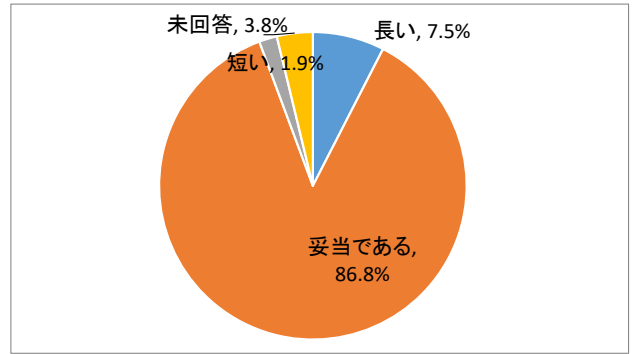
	回答	割合
自信を持って自己採点できる	13	24.5%
概ね自信を持って自己採点できる	33	62.3%
自信がない	7	13.2%
合計	53	100.0%



## 総合評価の制度改定に向けた検討項目について

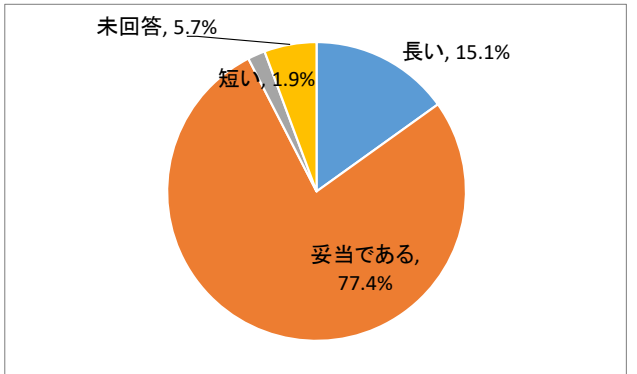
**設問4** 企業の技術能力「同種・類似業務の実績」は、標準として”過去10年度間”を評価していることについて伺います。

	回答	割合
長い	4	7.5%
妥当である	46	86.8%
短い	1	1.9%
未回答	2	3.8%
合 計	53	100.0%



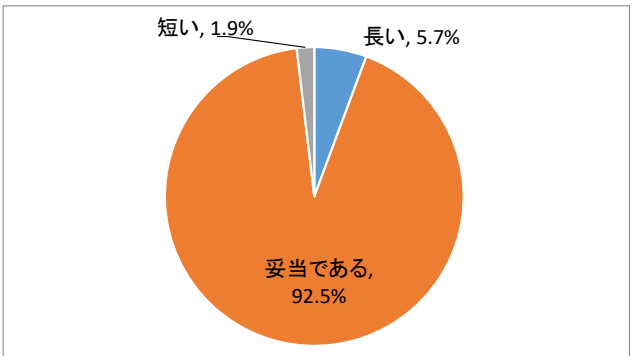
**設問5** 企業の技術能力、「業務成績評定」は、標準として”過去4年度間の県発注業務の成績評定点の平均点”を評価していることについて伺います。

	回答	割合
長い	8	15.1%
妥当である	41	77.4%
短い	1	1.9%
未回答	3	5.7%
合 計	53	100.0%



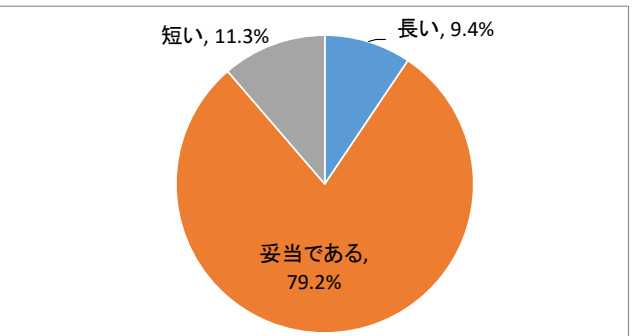
**設問6** 配置予定技術者の「同種・類似業務の実績」は、標準として”過去10年度間”を評価していることについて伺います。

	回答	割合
長い	3	5.7%
妥当である	49	92.5%
短い	1	1.9%
合 計	53	100.0%



**設問7** 配置予定技術者の「業務成績評定」は、標準として”過去4年度間の県発注業務の成績評定点の平均点”を評価していることについて伺います。

	回答	割合
長い	5	9.4%
妥当である	42	79.2%
短い	6	11.3%
合 計	53	100.0%

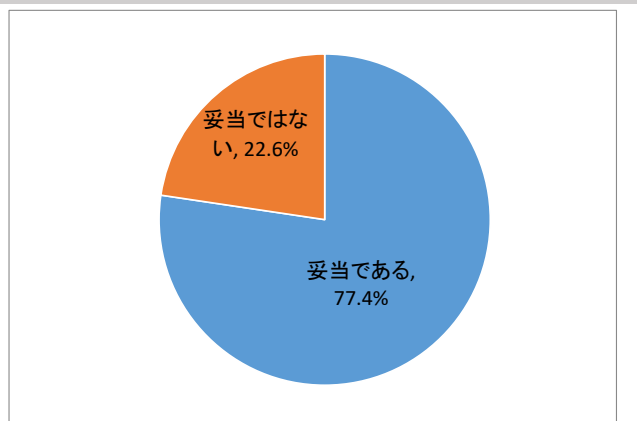


## 将来的な総合評価の制度改定を見据え、貴社の取組について

**設問8** 国では技術者資格の評価順位を、①技術士、博士、②国土交通省認定技術者資格、③国土交通省認定技術者資格に登録されていないRCC M、土木学会認定土木技術者資格の順と定めています。

技術者の保有する資格の評価を明確にするため、国に準じて技術者資格の評価順位を定めることを検討していますが、このことについて伺います。

	回答	割合
妥当である	41	77.4%
妥当ではない	12	22.6%
合 計	53	100.0%



※「その他」の具体的な意見は、最後の記述欄に記載

設問8【「妥当ではない。」自由記述】※()内は同様の意見数

「国に準じて技術者資格の評価順位を定める」事が、全ての業務において妥当だとは思えない。(5件)

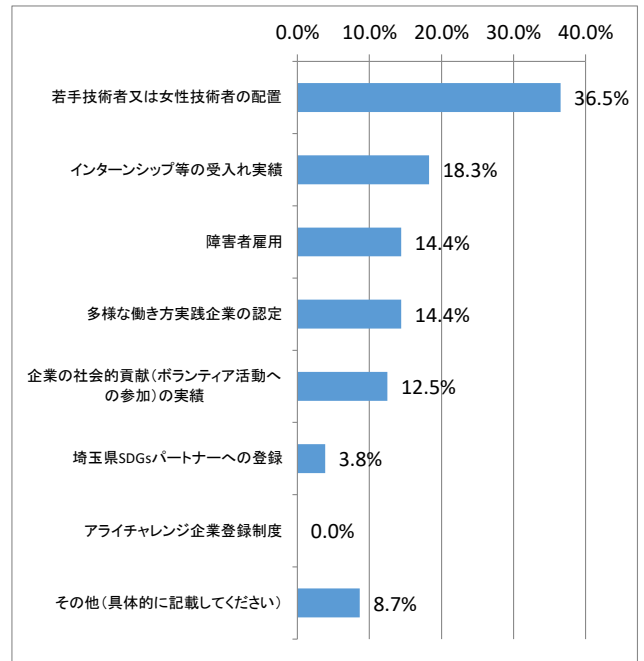
比較的小規模な会社でも参入できる土壌づくりが有れば良い。一律条件ではハードルが高い。(2件)

地質調査業務が対象になる時は、地質調査技士を加えていただきたい。

技術士とRCCMは同評価としても良い。

設問9 総合評価で加点した方が良い評価項目がありますか。【3つまで選択可】

	回答	割合
若手技術者又は女性技術者の配置	38	36.5%
インターンシップ等の受入れ実績	19	18.3%
障害者雇用	15	14.4%
多様な働き方実践企業の認定	15	14.4%
企業の社会的貢献(ボランティア活動への参加)の実績	13	12.5%
埼玉県SDGs/パートナーへの登録	4	3.8%
アライチャレンジ企業登録制度	0	0.0%
その他(具体的に記載してください)	9	8.7%
合計	104	100.0%



設問9【「その他」自由記述】※()内は同様の意見数

女性活躍推進法に基づく認定等(えるぼし認定企業等) (2件)

次世代法に基づく認定等(くるみん認定企業等) (2件)

60歳以上のシニア技術者の配置(2件)

会社所在地による加点

企業の資本金規模による安定度の評価

適正な下請け契約

若手雇用促進法に基づく認定等(ユースエール認定企業等)

地域貢献度(見積作成、特殊業務発注の相談、軽微な災害対応、各企業の受注業務における地域比重等)

埼玉県内における各種協会活動実績等

担当技術者(現場責任者)の実績

県発注業務における実績件数・受注金額

企業の賃上げ表明

設問10 総合評価方式に関する御意見を自由に記述してください。

※( )内は同様の意見数

【制度全般について】

- ・地元企業育成のため、県内本店(地元企業)が評価される総合評価を行ってほしい。(7件)
- ・総合評価方式により、成果品の品質向上、若手技術者の育成、担い手確保などが期待できる。導入を進めてもらいたい(6件)
- ・総合評価方式はどのような案件に、何を重視して適用されるのか明確にしてもらいたい。(5件)
- ・同じ業者が落札する傾向があるため、案件に応じて選択評価項目を多くするなどの改善をお願いしたい。(4件)
- ・案件に応じて一般競争入札とするなど、新規参入や企業の実績確保も考慮してもらいたい。(4件)
- ・総合評価方式は、業務規模が大きい業務を対象として適用してほしい。(2件)
- ・県内業者が有利になるような項目配置が多い。
- ・発注者支援業務(工事監督支援業務、積算技術業務等)にも総合評価方式を適用してほしい
- ・評価基準や提出様式は、国の取組みと共通していると、効率的に処理が行えコスト低減に有効である。
- ・最低制限価格で応じないと受注出来ない状況が多く、技術面での競争が薄れてしまう。
- ・業務成績評定について、国などの実績も評価して欲しい。
- ・評価項目が多いため、評価項目を減らし各項目の配点を上げてほしい。

【評価項目について】

- ・管理技術者の手持ち業務数について、評価基準となる業務数を増やしてほしい。(4件)
- ・配置予定技術者の同種・類似業務の実績について、担当技術者としての従事も実績として認めてほしい。(3件)
- ・CPDについての単位取得の証明について、国と同様の期間設定として欲しい。(3件)
- ・表彰制度の評価をより重視していただきたい。(2件)
- ・業務成績評定の配点をもっと高くしてほしい。(2件)
- ・成績評定の平均点については、部門毎の評価にしてもらいたい。
- ・国土交通省等の他機関での表彰も加点の対象としてほしい。
- ・成績評定の評価については、件数の要件も追加してもらいたい。
- ・成績評価の対象期間を長くしてもらいたい。
- ・県内の実績や地域貢献度として、協会活動などの実績を評価対象としてほしい。

【手続きについて】

- ・手続き等を極力簡易化し、手続き期間の短縮を図ってほしい。(4件)
- ・技術資料の添付の要否について、明確にもらいたい。